

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム グットスマイルズ		
所在地	山口県山口市桜島2丁目9番32号		
電話番号	083-933-6188	事業所番号	3590300020
法人名	医療法人 英知会		

訪問調査日	平成 21 年 10 月 16 日	評価確定日	平成 22 年 4 月 26 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	17 人	常勤 8 人 非常勤 9 人 (常勤換算 14.4 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 56,000 円	敷金	有 100,000 円	
保証金	有 100,000 円	償却の有無	有	
食費	朝食	250 円	昼食	560 円
	夕食	650 円	おやつ	円
その他の費用	月額	36,000 円		
	内訳	光熱水費 24,000円	共益費 12,000円	

(4) 利用者の概要 (10月16日現在)

利用者数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
	要介護1	6	要介護4	2	
	要介護2	4	要介護5		
	要介護3	6	要支援2		
年齢	平均 85 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 原田内科胃腸科医院 佐々木外科病院
	歯科 児玉歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

利用者がこれまで暮らしてこられた生活を尊重するとともに、「入居したことで新たな楽しい日々を過ごすことが出来るように支援していきたい」という管理者の思いを職員が共感し、一体となって、心のこもったサービスを提供されています。利用者もゆったりと穏やかな表情で、明るく過ごされています。

(特徴的な取組等)

利用者に献立の希望を聞かれ、理事長の方針で毎日昼食に刺身を提供され、利用者や家族から大変喜ばれています。開設3年目で、まだ看取り例はありませんが、管理者は、看取りを希望される利用者や家族の要望に応えるために、数箇所の先進地視察をされたり、法人内での連携づくりや職員育成など、将来に向けての体制づくりに取り組まれています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

全職員が全体会議で検討し、11月に夜間想定避難訓練を予定されています。応急手当等の定期的な訓練の実施についても検討されています。

(今回の自己評価の取組状況)

職員は評価の意義を理解し、評価を自分たちのケアの振り返りの場として捉えられておられます。各項目について職員がわかる範囲で記入したものをサブ管理者やユニットリーダーがまとめて作成されています。

(運営推進会議の取組状況)

2ヶ月に1回開催し、自治会長、民生委員、消防団員、市地域包括支援センター職員、家族(3家族)、利用者、管理者、職員等のメンバーで、状況報告、活動報告、家族の要望、地域の情報、外部評価報告等について意見交換を行ない、サービスに活かすように取り組まれています。

(家族との連携状況)

毎月事業所便りを発行し、一人ひとりの写真や手紙、行事案内をそえて送付し、面会時や電話等で、暮らしぶりや健康状態、金銭報告、職員の異動等を報告し要望等を聞かれています。阿弥陀寺の紫陽花見学、事業所の敬老会、りんご狩りなどの行事は家族と一緒にされています。

(地域との連携状況)

地域の盆踊り大会に参加したり、法人の文化祭や夏祭りでデイサービス利用者や地域の人々と交流し、地域のボランティアや小学4年生の社会見学、県立大学の実習生等を積極的に受け入れ、散歩や買い物などで地域の人々と交流されています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「家庭的な雰囲気の中で、その人らしく、笑顔で暮らしていただけるようにし、出かけることはしていただき、できないことは寄り添って支援し、地域との交流を目指します」という事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を食堂に掲示し、申し送り時に唱和して共有し、理念の実践に向けて取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の盆踊り大会に参加したり、法人の文化祭や夏祭りでデイサービス利用者や地域の人々と交流し、地域のボランティアや小学4年生の社会見学、県立大学の実習生等を積極的に受け入れ、散歩や買い物などで地域の人々と交流している。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>職員は評価の意義を理解し、自分たちのケアの振り返りの場として捉えている。各項目について職員が記入したものをサブ管理者やユニットリーダーがまとめている。外部評価の結果は全職員が検討し、出来るところから改善している。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1回開催し、自治会長、民生委員、消防団員、市地域包括支援センター職員、家族(3家族)、利用者、管理者、職員等のメンバーで、状況報告、活動報告、外部評価報告等について意見交換を行ない、サービスに活かしている。</p>	
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議以外にも、市の介護保険課等の窓口に出向いて、サービス体制の確認や相談、報告等をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月事業所便りを発行し、一人ひとりの写真や手紙、行事案内をそえて送付し、面会時や電話等で、暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等を報告し、要望等を聞いている。紫陽花見学、事業所の敬老会、りんご狩りなどの行事は家族と一緒にしている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時や電話、運営推進会議等で家族の意見や苦情を聞き運営に反映している。苦情相談窓口、担当者、外部機関を明示し、苦情処理手続きを定めている。第三者委員の選任はしていない。	・第三者委員の選任
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤8名、非常勤9名を確保し、利用者の状況や要望に柔軟に対応できるようにしている。職員の急な休みには、話し合いで勤務調整している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動や離職を最小限に抑える努力をし、利用者が安心して支援を受けられるよう配慮している。異動の場合は、重複勤務を約1週間設けて、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月、定例会議の後に内部の勉強会を開催して、働きながらトレーニングしている。外部研修も段階に応じて勤務の一環として参加している。研修内容は復命し、業務に反映させている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会や山口・防府ブロック研修会等に参加し交流している。事例発表などの合同勉強会、相互訪問などを行って、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>本人と家族に施設見学をしてもらい、他の利用者や職員と一緒にお茶を飲みながら馴染みの関係づくりをしたり、併設施設のデイサービスを利用してもらって、職員が出向いて馴染みの関係づくりをしている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員は、利用者から畑の作物の植える時期や作り方などを教えてもらい、調理や下膳、食器洗いなどを一緒にしながら、日々の暮らしの中で、1日に1度は笑いあう場面づくりをして、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>センター方式を活用してアセスメントを行い、日々のかかわりの中で会話や行動などを「申し送りノート」に記入し、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族と相談したり職員間で話し合い検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアカンファレンスを月1回開催し、本人、家族の希望や主治医や担当者・職員の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>介護計画の期間に応じて6ヶ月毎に見直している。状態の変化が生じた場合は、その都度利用者・家族・医師等の関係者と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>医療機関への送迎や付き添い、買い物、ドライブ、訪問理美容の利用等、要望に応じて柔軟な支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用開始時にかかりつけ医を確認しているが、内科は協力医療機関がかかりつけ医になっており、週1回の往診等が行われている。皮膚科等への受診は、家族と連携をとりながら適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	指針を定め、契約時に家族に説明し同意を得ている。医療連携体制加算のもとで、医師や看護師と連携し、全職員が方針を共有している。看取り例はないが、管理者は看取りについて、先進地視察を行なうなど、前向きに取り組んでいる。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	職員は接遇研修でプライバシー保護について学び、自尊心を傷つけない言葉かけや対応をしている。記録物は個人情報の取り扱いに注意し、鍵付きの保管庫に収めている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の気持ちや一人ひとりのペースを大切に、自由にその人らしい暮らしが出来るよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	平日の昼食は併設施設から配食されているが、それ以外は事業所で調理している。利用者の希望の献立を聞き、理事長の方針で毎日昼食に刺身を提供している。職員は、買い物、調理、配膳、後片付けなどを一緒に行い、同席し、誕生会は特別メニューにして、食事を楽しめるように支援している。	
24 (64)	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴が可能であり、利用者の希望の時間に合わせて、午前や午後に入浴ができるように支援している。入浴の記録をつけ、入浴を嫌がる利用者も定期的に入浴ができるように声かけをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ぬり絵、歌、花の世話、トマトづくり、カレンダー作り、デイサービスセンターでの催し、SL列車眺め、ドライブ、りんご狩りなどの楽しみごとや、調理、テーブル拭き、食器洗い、洗濯物たたみ、草取り、畑づくりなど、活躍できる場面をつくり支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、食材の買い物、花見、ドライブなど、その日の希望にそって、外出が楽しめるよう支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	マニュアルを作成し、法人の宣言文もあり、職員は身体拘束について正しく理解し、抑制や拘束のないケアを実践している。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵の弊害を正しく理解しており、日中鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出を察知したら、職員が見守りながら同伴している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し、研修会に参加し、ヒヤリはつとや事故報告書に記載して分析・検討し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルや緊急連絡網を作成し、利用者の急変時や事故発生時は主に看護師が対応している。年1回救急講習を受講しているが、応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	併設施設と合同で日中を想定した消火・避難訓練を実施し、運営推進会議で、メンバーの地区消防団員とともに、協力体制についての話し合いをしている。11月には、夜間想定訓練を計画している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報は個人記録に綴じ、看護師から指導も受けており、職員は薬の目的、副作用、用法や用量について理解している。薬はその都度手渡して服用を確認し、変化が生じた場合は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後に口腔ケアを実施し、居室の洗面台で、一人ひとりに合った支援をしている。歯ブラシや義歯は定期的に洗浄し、清潔保持に努めている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	法人の管理栄養士に献立表を点検してもらい、栄養バランスに配慮した献立で、一人ひとりの状態に応じた食事の支援をしている。食事・水分摂取量、体重は毎日記録している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症予防マニュアルに従って、手洗い、うがいの施行、トイレ消毒、手すりの拭き掃除などを実行している。インフルエンザの予防接種は全員受けている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ホーム内は明るく、静かに軽音楽が流れている。壁には季節毎のちぎり絵や毎月のカレンダーなど、利用者の作品が飾っており、季節感が感じられる工夫をしている。廊下にはソファが置かれ、利用者同士のくつろぎの場になっている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室に洗面台があり、ベッドにナースコールが設置されている。馴染みの家具やベッドなどを持ち込み、写真や手芸品なども飾られ、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	医療法人 英知会 グループホーム グッドスマイルズ
所在地	山口県 山口市 桜畠2丁目 9番32号
電話番号	083 - 933 - 6188
開設年月日	平成 19年 6月 1日

【サービスの特徴】

当施設では、入居者の方々に対し、よりよい生活をおくっていただけるよう、食事・毎日の入浴・季節を感じることのできる行事など力をいれております。また、入居者の機能維持を目的として、毎朝のラジオ体操や機能訓練、脳活性のプログラムをとりいれ、参加していただいています。各ユニットにピアノやオーディオ機器をそろえ、音楽の時間をつくっています。金魚飼育、花や季節の野菜を植えて、入居者の皆様と一緒に世話をしています。

【実施ユニットの概要】 (10月7日現在)

ユニットの名称	こすもす			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名	
	要介護1	3	要介護4	1
	要介護2	2	要介護5	0
	要介護3	3	要支援2	0
年齢構成	平均 86 歳	最低 76 歳	最高 95 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	施設長と職員が質問事項を読み、分かる項目について記入、全体をまとめました。普段、運営に直接かわからない職員は、質問項目が理解し難く、記入できる範囲が少なかったようですが、グループホームに求められるものを多少なりとも理解してもらえたと思います。この自己評価をまとめたものを、再度職員に読んでもらい、日々の業務、運営において要求される事を理解してもらい、職員とサービスの内容、質を充実・向上できるように活用したいと思います。
評価確定日	平成 21年 10月 7日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印、(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>英知会のグループホームの理念の実践として、その方の今までの暮らし方をこちらでも続けていただけたこととし、継続の形をつくり、地域への関わりも同じくする。</p>	<p>現在、生活リズムをつくりつつあり、願われる地域行事や生活へは積極的に出て行くようにしている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>年に一回、職員とどのようなグループホームにしたいか話し合い、その内容を実現できるよう理念の見直しをし、内容を共有している。</p>	<p>申し送り時に、唱和を行い共有理解できるように努めている。</p>
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>	<p>各ユニットごとに、理念を掲示している。</p>	
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>	<p>月1回のミーティングを行い、入居者が暮らしやすいよう、管理者、職員で話し合ってます。</p>	<p>ミーティング内容が現状の確認、行事、事故報告が中心なので、業務の改善や運営について話をしていきたい</p>
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>施設での生活の様子を、通信(たより)の形で月1回発行し、家族へ郵送したり、他事業所、病院に掲示している。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>	<p>近隣の方々には、職員も入居者も挨拶を交わしている。近所の方々と同じように、スーパーや薬局で買い物をしている。しかし、入居者の関係者以外の立ち寄りはない。</p>	<p>施設行事に近隣の方々が参加できるように考える。</p>
7	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>宮野地区の盆踊り大会に出向き、盆踊りを一緒に踊るなどし、参加した。運営推進会議で自治会長や民生委員の方々と顔を合わせている。</p>	<p>地域の行事を把握し、積極的に参加したい。地域の学校行事(発表会、演奏会など)へ出かけてみたい。</p>
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>散歩や買い物など日常生活を行う上で、地域の方々に挨拶する事を行っている。自然体で行う。</p>	<p>顔見知りから、遊びに来てもらえるよう、職員の積極的話しかけをすすめる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価後に評価について職員にも報告するが、その後の改善に十分に生かされていない	定期的に改善すべき点を、その目的・効果を考え、話し合い、改善に取り組むたい。
10	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	定期的な報告を行うとともに、参加された方々からの意見や情報を頂き、行事や日々の活動の参考にしている。	入居者、ご家族にも参加頂き、よりひろいいけんをいただけるようにしている。
11	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営上不明な事がでた場合、TELや直接市と相談し、実行している。	山口市の判断が重要なので、直接教えていただいたり、インターネットで調べたりする。
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	今のところ、必要とされる方はおられない。	今後、家族と入居者との間で、必要であれば、この制度を話し、橋わたしをする。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修により、法的にも学習している。 施設での基本的人権の尊重は行われている。	ミーティングの時など研修の時間を設け、職員に指導していきたい。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に説明会や個別に家族と十分話し合いの場を持ち、施設側の方針と家族の意向を互いに理解できるようにしている。	個別での十分な話し合いを徹底し、継続させていく。
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族や友人と自由に面会や外出していただく。 入居者の意見や要望を聞き入れ、できるだけ解決するよう働きかけている。	家族や入居者から、いつでも意見が言いやすい環境をつくっておく。
16	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月に1度、本人の写真入りの手紙やおこづかい出納帳や領収書を送付している。	今後も継続して行いたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	1人1人のカルテを作成し、記載事項がいつでも見れるようにしてある。		家族等から情報開示の要求がいつあってもいいようにしていく。
18 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	契約書類に明記し、それを読みあげている。苦情処理担当職員を定めており、電話、FAXなどでも苦情の受け付けを行っている。		すみやかに解決できるようにしている。
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	引き継ぎノートに気づきなどを書き、職員同士で共有し(サインをする)その後、問題点などを管理者たちで話し合う。		問題によっては、ミーティングまで待たず、職員を集め検討する。
20 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	連絡網を職場から近いスタッフ順に作成している。看護師はいつでも連絡がとれる体制になっている。主任を3人体制とし、常に日勤帯に1人以上いるようにしている。		要望や意見があればすぐに対応していく。
21 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニットごとで担当は分けているが、散歩や行事などで職員、入居者共々に声をかけ合っている。		なじみのスタッフは当施設では全員であることを認識していくようにする。
5. 人材の育成と支援			
22 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者は外の研修、インターネットなどから他の施設の方の話聞くなどしている。職員には、ミーティングを通して研修を行う。		月1回のミーティングにて質の向上をしていきたい。
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	20代(4)、30代(7)、40代(2)、50代(5)、60代(2)様々な年齢のスタッフを配慮し、声かけ対応や台所作業などを行っている。		それぞれの年代はこれからもそろえていきたい。
24 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県グループホーム協議会加入、市外のグループホームの見学を行っている。		今後、研修や交流を通し、話をする機会を作っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		スタッフの勤務希望を確認し、希望休をとれるようにする。 ストレス具合をみきわめ、できる改善はすみやかに行う。
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		現在の仕事が、そのスタッフ1人のものとはたえず、スタッフ全体で共有し、日々利用者の笑顔に良き成果であると認識させたい。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		評価制を取り入れ、適切な評価が出来るようにしたい
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		入所された時、スタッフ全員にその方の情報共有を行っている。 今後も落ち着かれるまでは続ける。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		センター方式を活用しつつ、ご本人の状況や家族間の様子を知るよう努める。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		今までのやり方ですすめていく。
31	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		施設への移行が本人に受け入れられるよう、デイサービスから利用をはじめたりし、入所について本人が「だまされた」と思わない形を実行していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		1日に1度は、入居者と共に「笑う」機会を作っている。 畑の仕事など、入居者に教えていただきながら作業を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		利用者さんの気持ちや声に、スタッフが注意深く見守り、話し合いながらできる限り対応していきたい。
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		訪問者や家族が来られた時は、お茶をお出しし、その時に話しを持ちかけ、自然に聞けることをすすめたい。
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアカンファレンスを開き、本人、家族、スタッフの意向を取り入れ、介護計画を作成している。	
42	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入居者の状態の変化により、介護計画の再検討、見直しをして、現状に即した計画であるように対応していきたい。	状態変化に応じてセンター方式を用いて情報収集し、カンファレンスを行う。
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の記録を個別に書き込み、スタッフ同士で情報の共有を行う。	単なる行動記録にならないよう、様子のしっかり分かる記録を残す
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	看護師を配置し、病状や通院について家族と連絡をとりながら行うことができている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営会議の定期的開催により、地域のそれぞれの分野の方と話し場をつくっている。	今後、この会の充実へ向けた取り組みをしていきたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	地域の小中大学の学生の見学や体験学習の受け入れを行っている。	行事を開催していく中で、地域や家族への関わりを増やしたい。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		今後、必要があると判断する時、協働していきたい。
49	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		今のまま、できる限り医師へ来所していただく。
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		注意深く状況の変化を主治医へ報告していく。
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		病院側の看護師と施設側の看護師は利用者さん一人一人の事を今まで通りすみやかに報告確認し合う。
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		今後必要があれば実行する。
53	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		文書による納得、確認そして了承印をおして頂く。また、その都度話し合っ最善の道を決めていく。
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		今後、主治医の判断を基にその時が来たなら家族、本人の希望をすみやかに取り入れ決定していきたい。
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		今後も必要に応じて連絡を取り合う

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個人情報カギ付きのロッカーに保管している。</p>	<p>居室のドアを開けたままにしない。また入質時にはロックをする。</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者1人1人のレベルに合わせた声かけや支援を行い、なるべく本人の意向に添えるよう配慮している。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>本人のできる事や、出来る方法を見極め、実行していただく配慮をしている。</p>	<p>できない事ややりたくない事を無理に誘導しない。</p>
59	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>1人1人のペースを考え、強要しないよう配慮している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>外出して、馴染みの美容室へ行かれる入居者、出張利用美容車を利用する。入居者が好みの身だしなみができるよう支援している。</p>	<p>入所者のお好きなように選んでいただき、家族へも了解をえて行っているのこのまますすめる。入浴の際、本人により着替えの服を選んで頂く。</p>
61	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>夏はそうめん流しで風物を取り入れ、誕生日会はお寿司を注文したりと工夫している。食事の準備や片付けはできる範囲手伝って頂きスタッフと一緒にしている。</p>	<p>外食も取り入れていながら、これからも一緒に食事を楽めるよう工夫していきたい。献立作成時に入居者にも食べたい物を聞きながら共に作成する</p>
62	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>夕食時、ビールを飲むなど、本人が家庭でしていた事を家族と相談の上、そのまま続けていけるよう支援している。</p>	<p>アルコール飲酒など、入居者が望めば、家族、主治医と相談のうえでできる限り沿っていきたい。</p>
63	<p>気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>定期的に(時間や間隔をみながら)声かけや誘導を行い、排泄の習慣・感覚が身につけていけるよう支援している。</p>	<p>これからも声かけをしていき、一人一人に合った排泄パターンを整えていけるよう支援する。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。		入浴の記録をつけ、定期的に入浴できるよう声かけを行っている。
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		畑仕事や台所仕事の役割を持って頂く
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		買い物の時、金銭の受け渡し、お釣りの受け取りを見守りのもと、入居者にして頂く
68	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		施設内、施設周辺、戸外へ出て行く機会を増やす。
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		今後も外出や行事を増やしていきたい。
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		面会者が来られた時にきちんとあいさつし、次も気軽に来れるような雰囲気になるように努める。
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		年数回、家族参加の行事を企画している。
(4)安心と安全を支える支援			
74	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		虐待と同様、今後職員に研修を行い、理解を深めていく
75	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけていない。	夜中や朝方など、職場が少ない夜間帯やむを得ず鍵をかける場合がある。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	夜間は、2時間ごとの巡回を行い、入居者1人1人の様子を把握し、日中は入居者がどこで何をされているか把握するよう努めている。	プライバシーに配慮して把握していく。
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ハサミの持参は1人1人の状況に応じて対応している。包丁は手の届かない場所に保管している。	
78	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	看護師による薬の投薬指導や防火訓練を行い、マニュアルを作成している。	投薬時のダブルチェックを欠かさず行っている。
79	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時や事故発生時の対応について内部研修を行い、看護師から指導をもらっている。	消防署にも協力してもらい、救急救命の研修も行っている。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	緊急事態や危険を感じた時は、「ひやり・はっと」を作成し、それに対する話し合いを行って、再発を防止できるように努めている。	ミーティング時に1か月の事故件数等について統計を取り、個別ケアに反映させる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		センター方式も用いて異変時の対応を行なう。
84	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		主治医に相談し、内服薬の調整、咀嚼の声掛け、見守りを行う
86	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		義歯の方については、週2回義歯洗浄剤による洗浄を行っている
87	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		本人が欲したとき、発熱時にこまめに水分補給していく
88	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		寝具はリースとし、定期的(最低週1回)のシーツ交換を行っている。外出からの帰所、食事前にはアルコール消毒を行う
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	日中に玄関に鍵をかけず、安心して出入りできるようにしている。 玄関まわりの掃除を毎日欠かさず行っている。	
91	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	毎月のカレンダーをちぎり絵などで作り、季節を感じる掲示物を貼るなどしている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下の奥にソファを置いたり、リビングに常に1人はスタッフがいないようにしたりと、気軽に集まれるような場所をつくっている。	
93	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、その方の趣味などを大切にしたりした物を飾り、思い出の品や写真を置くなど、本人にとって居心地よく過ごせるような部屋作りをしている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎朝、掃除の時間は換気を行い、空気の入換えをしている。 入居者の状況に応じて冷暖房を入れるなどし対応している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	浴室・トイレ・階段・廊下など、手すりを設置し、安全で自立した生活を送ることができるように工夫している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。		
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	中庭やテラスでの活動や畑・花壇での作業を行っている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが	職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	医療法人 英知会 グループホーム グッドスマイルズ
所在地	山口県 山口市 桜畠2丁目 9番32号
電話番号	083 - 933 - 6188
開設年月日	平成 19年 6月 1日

【サービスの特徴】

当施設では、入居者の方々に対し、よりよい生活をおくっていただけるよう、食事・毎日の入浴・季節を感じることでできる行事など力をいれております。また、入居者の機能維持を目的として、毎朝のラジオ体操や機能訓練、脳活性のプログラムをとりいれ、参加していただいています。各ユニットにピアノやオーディオ機器をそろえ、音楽の時間をつくっています。金魚飼育、花や季節の野菜を植えて、入居者の皆様と一緒に世話をしています。

【実施ユニットの概要】 (10月7日現在)

ユニットの名称	ひまわり			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名	
	要介護1	3	要介護4	1
	要介護2	2	要介護5	
	要介護3	3	要支援2	
年齢構成	平均 84 歳	最低 79 歳	最高 90 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	施設長と職員が質問事項を読み、分かる項目について記入、全体をまとめました。普段、運営に直接かわからない職員は、質問項目が理解し難く、記入できる範囲が少なかったようですが、グループホームに求められるものを多少なりとも理解してもらえたと思います。この自己評価をまとめたものを、再度職員に読んでもらい、日々の業務、運営において要求される事を理解してもらい、職員とサービスの内容、質を充実・向上できるように活用したいと思います。
評価確定日	平成 21年 10月 7日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印、(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		<p>現在、生活リズムをつくりつつあり、願われる地域行事や生活へは積極的に出て行くようにしている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>申し送り時に、唱和を行い共有理解できるように努めている。</p>
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		<p>ミーティング内容が現状の確認、行事、事故報告が中心なので、業務の改善や運営について話をしていきたい</p>
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		<p>施設行事に近隣の方々が参加できるように考える。</p>
7	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>地域の行事を把握し、積極的に参加したい。地域の学校行事(発表会、演奏会など)へ出かけてみたい。</p>
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>顔見知りから、遊びに来てもらえるよう、職員の積極的話しかけをすすめる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価後に評価について職員にも報告するが、その後の改善に十分に生かされていない	定期的に改善すべき点を、その目的・効果を考え、話し合い、改善に取り組むたい。
10	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	定期的な報告を行うとともに、参加された方々からの意見や情報を頂き、行事や日々の活動の参考にしている。	入居者、ご家族にも参加頂き、よりひろいいけんをいただけるようにしている。
11	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営上不明な事がでた場合、TELや直接市と相談し、実行している。	山口市の判断が重要なので、直接教えていただいたり、インターネットで調べたりする。
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	今のところ、必要とされる方はおられない。	今後、家族と入居者との間で、必要であれば、この制度を話し、橋わたしをする。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修により、法的にも学習している。 施設での基本的人権の尊重は行われている。	ミーティングの時など研修の時間を設け、職員に指導していきたい。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に説明会や個別に家族と十分話し合いの場を持ち、施設側の方針と家族の意向を互いに理解できるようにしている。	個別での十分な話し合いを徹底し、継続させていく。
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族や友人と自由に面会や外出していただく。 入居者の意見や要望を聞き入れ、できるだけ解決するよう働きかけている。	家族や入居者から、いつでも意見が言いやすい環境をつくっておく。
16	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月に1度、本人の写真入りの手紙やおこづかい出納帳や領収書を送付している。	今後も継続して行いたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	1人1人のカルテを作成し、記載事項がいつでも見れるようにしてある。		家族等から情報開示の要求がいつあってもいいようにしていく。
18 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	契約書類に明記し、それを読みあげている。苦情処理担当職員を定めており、電話、FAXなどでも苦情の受け付けを行っている。		すみやかに解決できるようにしている。
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	引き継ぎノートに気づきなどを書き、職員同士で共有し(サインをする)その後、問題点などを管理者たちで話し合う。		問題によっては、ミーティングまで待たず、職員を集め検討する。
20 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	連絡網を職場から近いスタッフ順に作成している。看護師はいつでも連絡がとれる体制になっている。主任を3人体制とし、常に日勤帯に1人以上いるようにしている。		要望や意見があればすぐに対応していく。
21 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニットごとで担当は分けているが、散歩や行事などで職員、入居者共々に声をかけ合っている。		なじみのスタッフは当施設では全員であることを認識していくようにする。
5. 人材の育成と支援			
22 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者は外の研修、インターネットなどから他の施設の方の話を聞くなどしている。職員には、ミーティングを通して研修を行う。		月1回のミーティングにて質の向上をしていきたい。
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	20代(4)、30代(7)、40代(2)、50代(5)、60代(2)様々な年齢のスタッフを配慮し、声かけ対応や台所作業などを行っている。		それぞれの年代はこれからもそろえていきたい。
24 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県グループホーム協議会加入、市外のグループホームの見学を行っている。		今後、研修や交流を通し、話をする機会を作っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		スタッフの勤務希望を確認し、希望休をとれるようにする。 ストレス具合をみきわめ、できる改善はすみやかに行う。
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		現在の仕事が、そのスタッフ1人のものとはたえず、スタッフ全体で共有し、日々利用者の笑顔に良き成果であると認識させたい。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		評価制を取り入れ、適切な評価が出来るようにしたい
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		入所された時、スタッフ全員にその方の情報共有を行っている。 今後も落ち着かれるまでは続ける。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		センター方式を活用しつつ、ご本人の状況や家族間の様子を知るよう努める。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		今までのやり方ですすめていく。
31	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		施設への移行が本人に受け入れられるよう、デイサービスから利用をはじめたりし、入所について本人が「だまされた」と思わない形を実行していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		1日に1度は、入居者と共に「笑う」機会を作っている。 畑の仕事など、入居者に教えていただきながら作業を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		利用者さんの気持ちや声に、スタッフが注意深く見守り、話し合いながらできる限り対応していきたい。
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		訪問者や家族が来られた時は、お茶をお出しし、その時に話しを持ちかけ、自然に聞けることをすすめたい。
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		現在、どのように日中を過ごしているか、心身の健康状態も含め、把握するよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアカンファレンスを開き、本人、家族、スタッフの意向を取り入れ、介護計画を作成している。	
42	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入居者の状態の変化により、介護計画の再検討、見直しをして、現状に即した計画であるように対応していきたい。	状態変化に応じてセンター方式を用いて情報収集し、カンファレンスを行う。
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の記録を個別に書き込み、スタッフ同士で情報の共有を行う。	単なる行動記録にならないよう、様子のしっかり分かる記録を残す
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	看護師を配置し、病状や通院について家族と連絡をとりながら行うことができている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営会議の定期的開催により、地域のそれぞれの分野の方と話し場をつくっている。	今後、この会の充実へ向けた取り組みをしていきたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	地域の小中大学の学生の見学や体験学習の受け入れを行っている。	行事を開催していく中で、地域や家族への関わりを増やしたい。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		今後、必要があると判断する時、協働していきたい。
49	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		今のまま、できる限り医師へ来所していただく。
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		注意深く状況の変化を主治医へ報告していく。
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		病院側の看護師と施設側の看護師は利用者さん一人一人の事を今まで通りすみやかに報告確認し合う。
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		今後必要があれば実行する。
53	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		文書による納得、確認そして了承印をおして頂く。また、その都度話し合って最善の道を決めていく。
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		今後、主治医の判断を基にその時が来たなら家族、本人の希望をすみやかに取り入れ決定していきたい。
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		今後必要に応じて連絡を取り合う

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個人情報カギ付きのロッカーに保管している。</p>	<p>居室のドアを開けたままにしない。また入質時にはロックをする。</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者1人1人のレベルに合わせた声かけや支援を行い、なるべく本人の意向に添えるよう配慮している。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>本人のできる事や、出来る方法を見極め、実行していただく配慮をしている。</p>	<p>できない事ややりたくない事を無理に誘導しない。</p>
59	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>1人1人のペースを考え、強要しないよう配慮している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>外出して、馴染みの美容室へ行かれる入居者、出張利用美容車を利用する。入居者が好みの身だしなみができるよう支援している。</p>	<p>入所者のお好きなように選んでいただき、家族へも了解をえて行っているのこのまますすめる。入浴の際、本人により着替えの服を選んで頂く。</p>
61	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>夏はそうめん流しで風物を取り入れ、誕生日会はお寿司を注文したりと工夫している。食事の準備や片付けはできる範囲手伝って頂きスタッフと一緒にしている。</p>	<p>外食も取り入れていきながら、これからも一緒に食事を楽しめるよう工夫していきたい。献立作成時に入居者にも食べたい物を聞きながら共に作成する</p>
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>夕食時、ビールを飲むなど、本人が家庭でしていた事を家族と相談の上、そのまま続けていけるよう支援している。</p>	<p>アルコール飲酒など、入居者が望めば、家族、主治医と相談のうえでできる限り沿っていきたい。</p>
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>定期的に(時間や間隔をみながら)声かけや誘導を行い、排泄の習慣・感覚が身につけていけるよう支援している。</p>	<p>これからも声かけをしていき、一人一人に合った排泄パターンを整えていけるよう支援する。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		入浴の記録をつけ、定期的に入浴できるよう声かけを行っている。
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		畑仕事や台所仕事の役割を持って頂く
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		買い物時、金銭の受け渡し、お釣りの受け取りを見守りのもと、入居者にして頂く
68	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		施設内、施設周辺、戸外へ出て行く機会を増やす。
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		今後も外出や行事を増やしていきたい。
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		面会者が来られた時にきちんとあいさつし、次も気軽に来れるような雰囲気になるように努める。
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		年数回、家族参加の行事を企画している。
(4)安心と安全を支える支援			
74	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		虐待と同様、今後職員に研修を行い、理解を深めていく
75	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけていない。	夜中や朝方など、職場が少ない夜間帯やむを得ず鍵をかける場合がある。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	夜間は、2時間ごとの巡回を行い、入居者1人1人の様子を把握し、日中は入居者がどこで何をされているか把握するよう努めている。	プライバシーに配慮して把握していく。
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ハサミの持参は1人1人の状況に応じて対応している。包丁は手の届かない場所に保管している。	
78	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	看護師による薬の投薬指導や防火訓練を行い、マニュアルを作成している。	投薬時のダブルチェックを欠かさず行っている。
79	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時や事故発生時の対応について内部研修を行い、看護師から指導をもらっている。	消防署にも協力してもらい、救急救命の研修も行っている。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	緊急事態や危険を感じた時は、「ひやり・はっと」を作成し、それに対する話し合いを行って、再発を防止できるように努めている。	ミーティング時に1か月の事故件数等について統計を取り、個別ケアに反映させる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		センター方式も用いて異変時の対応を行なう。
84	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		主治医に相談し、内服薬の調整、咀嚼の声掛け、見守りを行う
86	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		義歯の方については、週2回義歯洗浄剤による洗浄を行っている
87	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		本人が欲したとき、発熱時にこまめに水分補給していく
88	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		寝具はリースとし、定期的(最低週1回)のシーツ交換を行っている。外出からの帰所、食事前にはアルコール消毒を行う
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	日中に玄関に鍵をかけず、安心して出入りできるようにしている。 玄関まわりの掃除を毎日欠かさず行っている。	
91	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	毎月のカレンダーをちぎり絵などで作り、季節を感じる掲示物を貼るなどしている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下の奥にソファを置いたり、リビングに常に1人はスタッフがいるようにしたりと、気軽に集まれるような場所をつくっている。	
93	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、その方の趣味などを大切にしたりした物を飾り、思い出の品や写真を置くなど、本人にとって居心地よく過ごせるような部屋作りをしている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎朝、掃除の時間は換気を行い、空気の入換えをしている。 入居者の状況に応じて冷暖房を入れるなどし対応している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	浴室・トイレ・階段・廊下など、手すりを設置し、安全で自立した生活を送ることができるように工夫している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。		
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	中庭やテラスでの活動や畑・花壇での作業を行っている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいの	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> 家族の1 / 3 くらいと	<input type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="checkbox"/> ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="checkbox"/> 大いに増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない